

【 重 要 】

シラバス
高等教育経営論 - 組織とリーダーシップ

名古屋大学教育発達科学研究科授業科目（高度職業人養成コース）

2単位

担当教員：中井俊樹

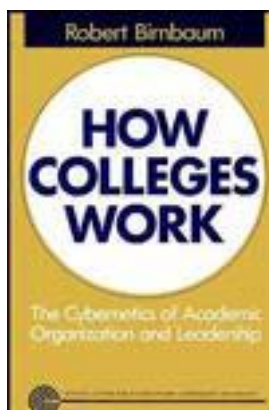
名古屋大学高等教育研究センター

文系総合館5階 高等教育研究センター会議室（509）

2005年度後期

水曜6時限目（18:15～19:45）

「名古屋大学は、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇氣ある知識人を育てる。」（『名古屋大学学術憲章』、2000年2月15日名古屋大学評議会で承認）



“American colleges and universities are the most paradoxical of organizations.”

Birnbaum(1988), p.3.

授業の概要

大学という組織は、どのような論理で動いているのでしょうか。そして、大学組織の中で構成員の協働が有効に行なわれるには、どのような条件や働きかけが必要なのでしょうか。これまで高等教育研究において、大学組織のダイナミクスを説明する理論が作られてきました。この授業では、組織理論と事例を通して、大学の組織とリーダーシップをより理解し、実際の組織運営に応用できる力を身につけることを目指します（教育発達科学研究科授業概要）。

授業の目標

この授業が終了したときに、受講者のみなさんが以下のような知識や能力を身につけることを目標にします。

- ・ 大学の組織的特徴を理解し、自分の言葉でまとめられるようになる。
- ・ 大学組織のダイナミクスを説明する5つの組織理論を理解し、それぞれの違いを説明できるようになる。
- ・ 5つの組織理論を用いて、実際の組織運営に応用・分析・統合することができる。
- ・ 組織に関する多様な考え方や経験で培った事例を尊重し、共に学びあう雰囲気に貢献する。

教科書

ロバート・バーンバウム（高橋靖直訳）（1992）『大学経営とリーダーシップ』玉川大学出版部。

その他の参考文献

- 有本章・羽田貴史・山野井敦徳（2005）『高等教育概論』ミネルヴァ書房。
- 伊丹敬之・加護野忠男（1993）『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社。
- 江原武一・杉本均編（2005）『大学の管理運営改革 日本の行方と諸外国の動向』東信堂。
- 桑田耕太郎・田尾雅夫（1998）『組織論』有斐閣。
- 日本経済新聞社（2002）『やさしい経営学』日本経済新聞社。
- B．R．クラーク（有本章訳）（1994）『高等教育システム - 大学組織の比較社会学』東信堂。
- D．T．セイモア（館昭・森利枝訳）（2000）『大学個性化の戦略 - 高等教育のTQM』玉川大学出版部。
- Avruch, K., Black P., Scimecca, J. (Ed.) (1991) *Conflict resolution*, Praeger.
- Balderston, F. (1995) *Managing today's university*, 2nd ed., Jossey-Bass.
- Birnbaum, R. (1992) *How academic leadership works*, Jossey-Bass.
- Bolman, L., Deal T. (1997) *Reframing organizations*, 2nd ed., Jossey-Bass.
- Brown II, M. C. (Ed.) (2000) *ASHE Reader: Organization & governance in higher education*, Boston: Pearson Custom Publishing.
- Cooper, T. (1998) *The responsible administrator*, 4th ed., Jossey-Bass.
- Goonen, N., Blechaman, R. (1999) *Higher education administration*, Greenwood Press.
- Hoffman, A., Summers, R. (2000) *Managing colleges and universities*, Bergin & Garvey.
- Ingram, R. (1993) *Governing public colleges and universities*, Jossey-Bass.
- Lenington, R. (1996) *Managing higher education as a business*, Orvx Press.

Lucas, A. (Ed.) (2000) *Leading academic change*, Jossey-Bass.
Mccaffery, P. (2004) *The higher education manager 's handbook*, RoutledgeFalmer.
Shafritz, J., Ott, J. (2001) *Classics of organization theory*, 5th ed., Wansworth.

学術誌・雑誌等

日本高等教育学会『高等教育研究』玉川大学出版部
民主教育協会『IDE・現代の高等教育』
リクルート『カレッジマネジメント』
進研アド『ピトウィーン』
The Chronicle of Higher Education, *The chronicle of higher education*.
TSL Education Ltd., *The times higher education supplement*.

担当教員

この授業は名古屋大学高等教育研究センター助教授中井俊樹が担当します。中井研究室は文系総合館 515 号室です。私の主な専門領域は高等教育論です。大学では学生は何を学ぶべきか、そしてどのような条件で学生はより学ぶのかということに関心があります。学生の学習に影響を与えるものはたくさんありますが、特に教授法に注目して研究を進めています。私の詳しい研究テーマに興味があれば以下のホームページを参考にしてください。

特定のオフィスアワーは設けませんが、事前にアポイントをとってもらえれば、授業の内容に関する質問などを答える時間を調整します。私宛に課題などの郵便物を送る場合、電話連絡する場合、メール連絡する場合は以下のものを利用してください。

住所 464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学高等教育研究センター
電話 052-789-5385
メール nakai@cshe.nagoya-u.ac.jp
U R L <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/overview/staff/nakai.html>

担当教員からのメッセージ：大学院生の中には「知の狩人」に変身する学生も少なくありません。大学院での知的探求のプロセスを十分に楽しんでください。この授業のシラバスでは、各回の概要、関連する文献、課題の内容をあらかじめ示しています。自分のペースでしっかりと学習を進めてください。また、この授業ではゲストスピーカーを何人が招待する予定です。貴重な機会なので交流を楽しんでください。

成績評価

授業への参加と3つの課題をもとに、授業の目標にどれほど到達しているのかという基準で成績評価を行いません。最終の成績評価におけるそれぞれの配分は以下の通りです。

授業への参加	30%
課題 1 : 大学組織の特徴分析	
レポート	10%
発表	10%
課題 2 : 文献レビュー	
レポート	10%
発表	10%
課題 3 : 大学組織のケース分析	
レポート	15%
発表	15%
合計	100%

授業への参加

できるだけすべての授業に出席してください。また、単に出席するだけでなく授業時間内の学習活動にも積極的に関わってください。この授業では多様な経験をもった学生が集まっています。受講者が職場などで培ってきた経験や考え方は、自らの貴重な教育資源になるとともに、クラスの他の人にとっても貴重な教育資源です。クラスのディスカッションに積極的にそして建設的に参加することを期待されています。また、クラス内で共有したほうがよいと思われるものは、授業の初めの時間に「共有情報タイム」を作りますので、進んで情報提供してください。

課題 1 : 大学組織の特徴分析

大学組織は、大学以外の組織とどのような点で異なるのでしょうか。この課題では、組織としての大学の特徴を抽出します。大学組織の特徴分析では、5 から 7 の特徴を抽出し、それぞれ簡単に説明してください。レポートは、A 4 用紙 1 ~ 2 ページにまとめてください。発表は 10 分以内で、ハイライトを中心に準備してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

課題 2 : 文献レビュー

この課題では、組織の管理運営に関する一冊の本をレビューします。本は必ずしも高等教育を対象としたものでなくても OK です。たとえば、次のようなテーマのものがあります。例：組織構造、組織文化、モチベーション、リーダーシップ、意思決定、コンフリクト・マネジメント、組織学習、官僚システム、ガバナンス、危機管理

文献レビューでは、(1) 文献の目的、(2) 想定している読者、(3) 内容の強みと弱み、(4) 大学の現場への示唆、(5) 総合評価を含めてください。文献の選択は担当教員に決

まり次第連絡してください。レポートは、A4用紙2ページ以内にまとめてください。発表は10分以内で、本のハイライトを中心に準備してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

課題3：大学組織のケース分析

この課題では、実際の大学組織のダイナミクスを分析します。ケース分析では、(1)ケースの時系列の描写、(2)授業で学んだ組織理論もしくはその他の知識を用いたケースの分析、(3)大学の管理運営への示唆を含めてください。ケースは身近なものでもいいですし、新聞、雑誌、ホームページなどで入手できるものでもいいです。ケースの選択は担当教員に決まり次第連絡してください。レポートは、A4用紙5ページ以内にまとめてください。発表は15分以内で、ハイライトを中心に準備してください。発表で配布物がある場合は、事前に人数分コピーを準備してください。

レポートの書式と提出方法

- ・ 参考文献はすべてリストにして掲載する
- ・ A4用紙を使用する
- ・ マイクロソフト・ワードで作成する(他のアプリケーションを使う場合は担当教員と相談すること)
- ・ すべてのページにページ番号をつける
- ・ ホッチキスでとめて提出する
- ・ 担当教員にメールで送る、もしくはゴーイングシラバスにアップロードする
- ・ クラスのメンバーに公開したくない内容のレポートは、その旨担当教員に連絡する

ゴーイングシラバス

この授業では、受講者の学習をサポートするためにゴーイングシラバスを利用します。ゴーイングシラバスは、名古屋大学高等教育研究センターが開発したホームページ上の授業支援サイトです。ゴーイングシラバスでは、授業で使用した教材をダウンロードしたり、課題を提出したり、質問やディスカッションをすることができます。また一部のページはパスワード管理しますので、初回の授業でパスワードを伝えます。

ゴーイングシラバスURL

<http://gs.cshe.nagoya-u.ac.jp/>

操作方法のマニュアル

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/gs/studentmanual/>

クラス内の方針

障害をもった学生の学習支援：障害をもった学生は、すみやかに担当教員に連絡してください。学習を支援できるようなクラス環境や授業方法について検討します。

受講者の学習権：他の受講者の学習環境を阻害するような行動をとる者に対しては履修を取り消すように求めることがあります。

不正行為：大学での不正行為とは、カンニング行為によって自分の能力を不正確に伝えたり、他人の論文などを剽窃したりすることで他人の権利を侵害することなどがあたります。万が一、不正行為があった場合は、教育発達科学研究科の規則にそって対応します。

ハラスメント：名古屋大学ではハラスメント防止基本宣言を定め、大学のすべての構成員が、お互いに自由や権利を尊重しあうことが不可欠であるとしています。万が一、ハラスメントが発覚した場合は、厳格に対応します。また名古屋大学にはセクシャル・ハラスメント相談所があり専門のカウンセラーがいます。

名古屋大学セクシャル・ハラスメント相談所

<http://www.sh-help.provost.nagoya-u.ac.jp/>

電話 052-789-5806 (9時30分～16時)

授業のスケジュール

第1回(10/5) イントロダクション

- 自己紹介
- この授業に関する説明
- 大学という組織の不思議

第2回(10/12) 大学組織の管理運営の特徴

- 管理の諸問題
- 組織の諸問題
- 制度上および組織上の制約
- 大学におけるリーダーシップ
- 大学組織の性格

バーンバウム『大学経営とリーダーシップ』はじめに、1章

第3回(10/19) 大学組織の構造と力学

- 大学組織のシステムとしての性格
- 管理職の役割
- 意思決定と合意形成

バーンバウム『大学経営とリーダーシップ』2章・3章

第4回(11/2) 同僚平等システム

- 同僚平等システムの特徴
- 同僚平等システムのリーダーシップ

大学組織の特徴分析1

バーンバウム『大学経営とリーダーシップ』4章

課題1 締切

第5回(11/9) 官僚システム

- 官僚システムの特徴
- 官僚システムのリーダーシップ

大学組織の特徴分析2

バーンバウム『大学経営とリーダーシップ』5章

第6回(11/16) 「大学入学生像と初年次教育の設計」

ゲストスピーカー：山本以和子氏(ベネッセコーポレーション株式会社)

第7回(11/30) 課題意識交換会

ゲストスピーカー：池田輝政先生(名城大学教授)

第8回(12/7) 政治システム

- 政治システムの特徴
- 政治システムのリーダーシップ

文献レビュー発表1

バーンバウム『大学経営とリーダーシップ』6章
課題2 締切

第9回(12/14) 大学の組織論の実際

ゲストスピーカー：栗本英和先生(名古屋大学評価企画室副室長)
文献レビュー発表2

第10回(12/21) 無秩序システム

- 無秩序システムの特徴
- 無秩序システムのリーダーシップ

バーンバウム『大学経営とリーダーシップ』7章

第11回(1/11) サイバネティックシステム

- サイバネティックシステムの特徴
- サイバネティックシステムのリーダーシップ

バーンバウム『大学経営とリーダーシップ』8章・9章

第12回(1/18) 5つの組織理論

5つの組織理論のそれぞれの特徴

第13回(1/25) ケース分析

ケース分析発表1
課題3 締切

第14回(2/1) ケース分析

ケース分析発表2

授業の内容に関連するイベント

後期の期間中に、授業の内容に関連するイベントがあります。興味があるものにぜひ参加してみてください。詳しい内容はホームページで確認してください。

- 10/26-30 Professional and Organizational Development Network in Higher Education 第30回大会（米国ミルウォーキー）
- 11/18 高等教育研究センター招聘セミナー（飯吉透カーネギー教育振興財団上級研究員）
- 11/24, 25 第3回日本 WebCT 研究会（福井）
- 11/26, 27 大学教育学会課題研究集会（新潟大学）
- 12/17 日本高等教育学会第3回研究交流集会（東京）

関連サイト

名古屋大学高等教育研究センター

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/>

広島大学高等教育研究開発センター

<http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/>

文部科学省

<http://www.mext.go.jp/>

大学評価・学位授与機構

<http://www.niad.ac.jp/>

大学基準協会

<http://www.juaa.or.jp/>

日本高等教育学会

<http://www.edu.kyushu-u.ac.jp/html/kyokan/yoshimoto/2005HE/>

大学教育学会

<http://www.obirin.ac.jp/unv/un-gakkai/>

日本 WebCT ユーザ会

<http://www.webct.jp/>

全国国公立大学の事件情報

<http://university.main.jp/blog/>

国立大学独立行政法人化の諸問題

<http://www.ac-net.org/dgh/blog/>

朝日新聞 教育・入試

<http://www.asahi.com/edu/>

読売新聞 教育ワンダーランド

<http://www.yomiuri.co.jp/education/>

日本私大教連

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/%7Ejpu-shi/shidai/>

経営学講座

<http://www.initiaconsulting.co.jp/archives/management/index.html>

メーリングリスト

Academia e-Network Letter (日本語)

<http://ac-net.org/letter/index.php>

サイエンス・コミュニケーション

<http://scicom.blogtribe.org/>

<http://scicom.jp/>

組織論に関する興味深い映画紹介

『12人の優しい日本人』(組織において意思決定はどのようにされるのか)

『白い巨塔 劇場版』(大学病院のもつ組織論はどのようなものか)